

平成 26 年度東日本大震災に係る海洋環境モニタリング 第 2 次調査結果について

環境省では、東日本大震災を受け、平成 23 年度、平成 24 年度、平成 25 年度に引き続き被災地の海洋環境、特に堆積物中の多環芳香族炭化水素及び放射性物質の水平分布状況の把握を目的としてモニタリング調査（第 2 次）を実施しました（調査実施日：平成 26 年 11 月 15 日～11 月 19 日）。調査は、岩手県及び宮城県の海域で第 1 次調査とは別の 20 測点（付図のとおり）において実施しました。

この度全ての調査項目の分析が終了したため、東日本大震災に係る海洋環境モニタリング調査検討会での検討結果を踏まえ、以下のとおり公表します。

1. 調査結果概要

ア) 化学物質調査

多環芳香族炭化水素（PAH）

堆積物中におけるアルキル基非置換体 PAH 17 種の総和は、概ね平成 23 年度～平成 25 年度調査結果（以下、「過年度調査結果」という。）の範囲内又は同程度でした。

イ) 放射性物質調査

堆積物中におけるセシウム 134 は検出下限値未満～93 Bq/kg (dry) の範囲、セシウム 137 では 1.1～290 Bq/kg (dry) の範囲でした。また、ストロンチウム 90 の濃度は検出下限値未満～0.22 Bq/kg (dry) でした。

2. まとめ

今回の調査結果から、被災地における堆積物中の PAH は、過年度調査の範囲内又は同程度であることが確認されました。なお、環境省では今後も継続してモニタリングを実施する予定です。

3. 東日本大震災に係る海洋環境モニタリング調査検討会検討員

(50音順、敬称略)

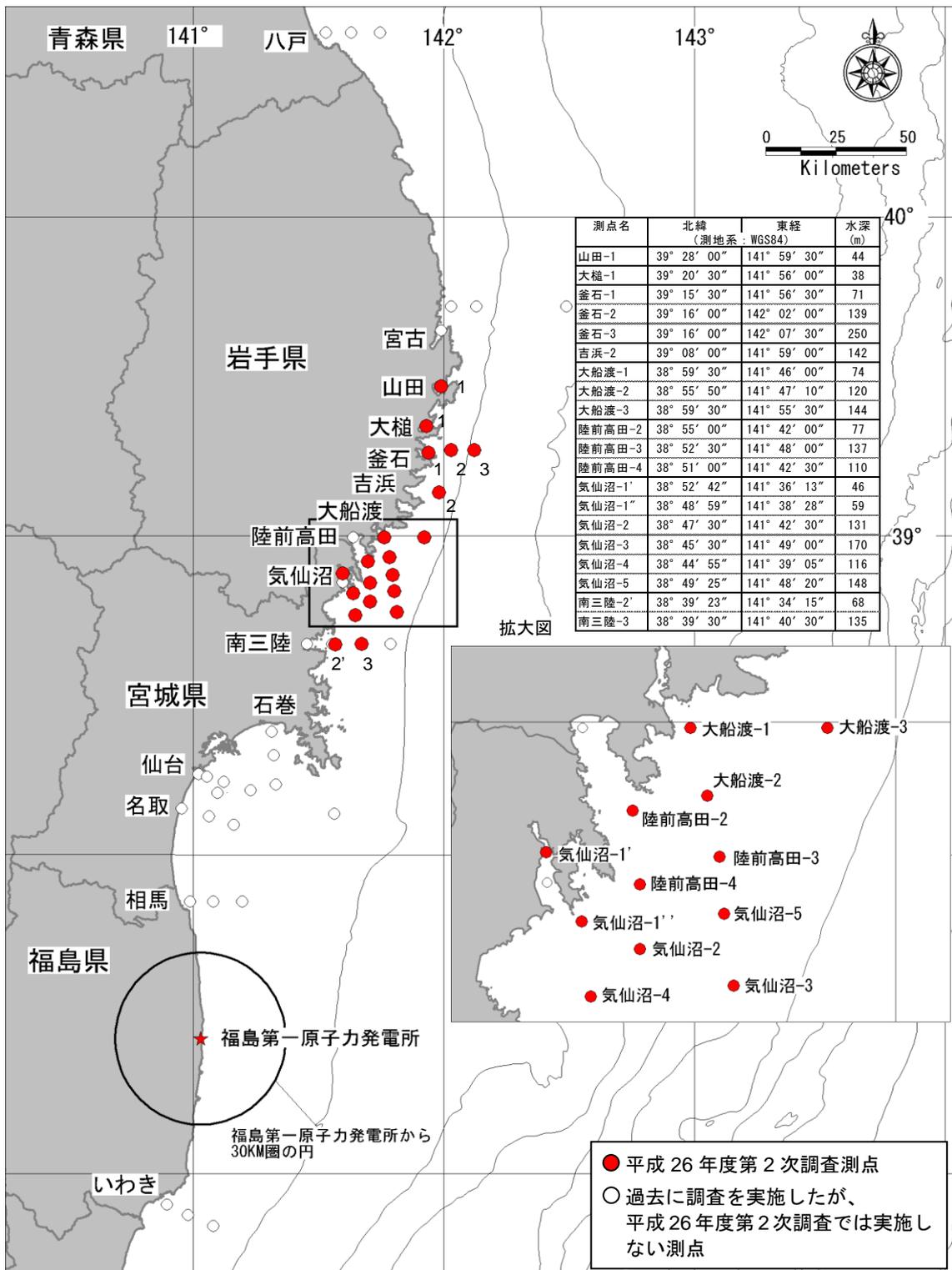
氏名	所属
石坂 丞二	名古屋大学宇宙地球環境研究所副所長・教授
小城 春雄	北海道大学水産学部名誉教授
白山 義久	海洋研究開発機構理事
田中 勝	公立鳥取環境大学客員教授・名誉教授
田辺 信介	愛媛大学沿岸環境科学研究センター教授
當重 弘	海上保安庁海洋情報部環境調査課海洋汚染調査室長
中田 英昭	長崎大学副学長・水産学部教授（座長）
西田 周平	東京大学大気海洋研究所国際連携研究センター教授
野尻 幸宏	弘前大学大学院理工学研究科教授
牧 秀明	国立環境研究所地域環境研究センター海洋環境研究室主任研究員

注：検討員・所属は平成27年度現在

【参考】

関連公表資料

- ・被災地の海洋環境のモニタリング調査結果の公表について（平成23年9月30日）
- ・被災地の海洋環境の第2次モニタリング調査結果の公表について（平成24年1月20日）
- ・被災地の海洋環境の第3次モニタリング調査結果の公表について（平成24年4月13日）
- ・被災地における海洋環境モニタリング調査結果の公表について（平成25年11月5日）
- ・平成25年度被災地における海洋環境モニタリング調査結果の公表について
(平成26年11月11日)



付図 平成 26 年度東日本大震災に係る海洋環境モニタリング調査測点(第 2 次)